

# 平成 30 年度第 4 回理事会議事録

日時：平成 31 年 3 月 9 日(土曜日)

場所：岩手医科大学 木の花会館 3 階会議室

出席者：行森良一、菊池英岳、畠山秀樹、高橋一博、川村将史、宮本祥一、畠山裕司、岡田進、阿部久子、千葉拓也、千田文枝、石川学、井上幸男、小野寺絵美、相原淳路

## はじめに(行森)

先月から技師会の活動が多く、宮島会長の国政報告会や初級・職能開発講習会等があり関係者の方々にはご協力頂き感謝している。宮島会長と話す機会があり、臨床検査技師や日臨技のこれからを考えている方だと感じた。これからも宮島会長には参議院議員として活躍して頂きたい。

## I 報告事項(行森)

・平成 30 年度第 2 回北日本支部幹事会議事録について

### 1. 北日本支部医学検査学会(第 7 回)報告

決算で 15,760 円の赤字となったが日臨技から補填される予定である。

### 2. 平成 30 年度北日本支部学術活動、研修会報告

染色体・遺伝子検査部門研修会(2 月 9 日)の案内文書の周知が遅く問題があった。また初級・職能開発講習会(3 月 3 日)の案内文書に山寺支部長名が無かった。今後、北日本支部管轄の研修会・講習会等の文書を作る際は注意して頂きたい。微生物部門の決算の収入執行率が 178%、印刷代は報告概要には記載されているが、決算が 0 円になっている。他の部門も含めて学術部長が確認することとなった。

3. 平成 30 年度第 3 回支部長連絡会議報告北日本支部関連の会議や研修会は支部長連絡会議に挙げるので開催県が定例報告用紙に記入後、提出してほしい。今回の初級・職能開発講習会については報告済みである。eラーニングは病院単位で行えるように検討中である。宮城県で開催している検体採取指定講習会を今年は 8 月 24 日～25 日、12 月 14 日～15 日に開催される。今年が最終年となる。

4. 平成 30 年度全国学術部長会議報告部門長、部門員の選任方法については、支部内のバランスが必要であり、適当な人材が選任されれば良いが、偏っているのが現状である。臨床生理部門の亜分類に呼吸生理追加の意見があったが時期尚早とされた。支部の再編について日臨技は考えていないので、支部研修会で必要があれば東北と北海道を別々に開催しても良いと思う。

### 5. 平成 31 年度北日本支部学術活動、研修会について(別紙)

5 月 18 日、19 日に下関市で第 68 回日本医学検査学会が行われる。平成 31 年度は岩手県では北日本支部の研修会は開催されない。

### 6. 北日本支部医学検査学会(第 7 回)学術奨励賞の選考について

受賞者 3 名挙げたが、若手企画も加えたいと学会長から説明があった。若手企画の名称で可能か支部長が日臨技に問い合わせをし、可能であれば 3 番目を若手企画にすることとなった。

### 7. 北日本支部医学検査学会(第 8 回)について

会期は10月5日～6日、会場は山形テルサと霞城セントラル。学会長は山形市立病院済生館の居鶴一彦会長である。第7回で好評だった若手実行委員企画を第8回でも行いたい。一般演題登録は4月～6月21日締め切り。事前参加登録は8月31日。座長は7月中旬に各県に依頼する予定。抄録はPDFで、プログラム集は8月末に完成し9月に配布する予定。リーフレットはこれから北日本支部道県に配布する。山形開催のマラソンと同時期なので宿泊予約が困難になる可能性があるが、学会である程度は確保してある。

#### 8. 第69回日本医学検査学会(2020年開催)について

宮城県での開催で、学会長は福島県臨床検査技師会会長の山寺幸雄会長、実行委員長は副臨技の柴田副会長が務める予定である。開催日は4月24日にスキルアップ研修会、4月25日～26日に第69回日本医学検査学会を開催する予定である。目標演題数は600題なので岩手からもご協力をお願いしたい。同年に北日本支部医学検査学会(第9回)もあるのでその点も考慮して対応していきたい。各施設への周知をお願いした。

#### 9. その他

柴田福臨技副会長から福臨技の法人化30周年記念式典を2020年6月に開催を予定しており、各会長への出席依頼を行った。北日本支部医学検査学会(第9回)は2020年10月17日～18日に会場はアイーナで開催すると報告した。早坂北海道幹事から東臨技から災害に対する寄付金を頂いたので有効に使用しますとの説明があった。

#### ・日本臨床検査技師連盟等について

平成31年第1回日本臨床検査技師連盟執行委員会にて、自民党への入党推進についての話があった。入党目標は年間2000人となっている。自民党の公認候補予定者である小川しんじさんが5月13日(月)にアイーナで講演会を行う予定である。2019年度の連盟の会員入会目標が8000口(2400万円)となっている。連盟会員数は岩手県においては11名で目標は76名となっている。達成率は14.5%と低調である。理事は前回の理事会で加入することになっている。加入者が増えるよう呼びかけを各施設で行うこととなった。

## II 各事業について

### 1. 総務部(菊池)

- ・12月14日、15日に技師会館で行われた災害派遣技師研修会に参加した。一日目は講義で内容はどのような団体が活動しているか、実際の活動内容や体験談等であった。2日目はグループワークで実際に災害が起きた状況を仮定して活動手順、行動内容をグループ内で討議した。実際に臨床検査技師が災害現場で活動することは少ないと思うが、イメージとしては被災した病院の検査室をいかに早く復旧させるかを視野に入れていくことが重要であると思われる。災害時の連絡体制等を構築していきたいと思う。日臨技にメールアドレスを登録していれば、一斉連絡は出来るので各施設、各個人共に日臨技のホームページから登録して頂きたい。
- ・会員名簿について作製には労力がかかっている。次回作製する際には日臨技の名簿を利用することとなっているが、異動等があった時には各会員が必ず変更を行うようにしてもらいたい。総会、会報等で会員にお知らせすることとなった。

### 2. 学術部(畠山秀樹)

- ・精度管理報告会を2月16日(土)に行った。初級・職能開発講習会を3月3日(日)に岩手県立中央病院

で行った。40名程の参加があり成功裏に終わった。

#### ・初級・職能開発講習会について(高橋)

本講習会の対象者は卒後3年から10年の若手技師。県立病院勤務者が多いことから県立病院臨床検査技師会と共同歩調とし、県立病院側では第113回目の実務研修会となった。初めての試みであったが医療局の理解もありスムーズに進み、大きな問題は発生しなかった。宮島会長は衆院での予算通過の影響で欠席となりビデオ講演となった。日臨技からは深澤専務理事が派遣され講演を行った。午後のグループワークでは川村常務理事が司会を行いスムーズに進んだ。いろいろな意見もあり参考になった。会場は岩手県立中央病院4階大ホール他、第2会議室、第3会議室を使用した為、施設費が掛からなかった。秋田の藤田会長、青森の齋藤会長も参加された。開催日は日曜日であったことで予約が取りやすかった。日曜日開催となったのは日臨技からの要請があった為であった。日臨技との連絡は畠山副会長が担当し、県立病院側は高橋常務理事が窓口となり、細川県立病院技師会長・福士事務局長とともに運営をした。役員同士の連携が良く、滞りなく企画・進行が行われた。日臨技から連絡があり、深澤専務理事の講師料や旅費は日臨技から出るので、後日返還されることとなった。

### 3、公益部(川村)

#### ・今年度の事業等について

9月9日に大雨の中、安比高原スキー場で行われたあっぱりレーマラソンに参加した。総勢15名の会員で大腸がん予防啓発活動を行った。検査と健康展は二戸で実施した。開催日は11月25日(日)、場所は二戸ショッピングセンターニコアで行った。来場者は102名であった。肺年齢測定機器が故障していて一部使用できなかった為、開催前に機器の状態を必ず確認することとなった。来年度の検査と健康展の開催地区は本来であれば盛岡地区であるが、医大の移転等あるので南部地区で行うこととなった。他の健康祭りと重ならなければ何かのイベント等と同時開催するのも可能である。場所は今後検討していくこととなった。

### 4、生涯教育(宮本)

#### ・平成30年度生涯教育対象行事について

平成30年度の生涯教育対象行事は54行事を登録した。前年が46行事なのでかなり多くなっている。内訳は専門が33回で去年と同じである。基礎が21回となり増えているが、内容を確認すると医療法等の一部改正があり、それに関連する講習会が増加した為と思われる。生涯教育を5年間で200点、基礎が60点以上、専門で140点以上取ることを考えると、専門分野と基礎分野の開催のバランスは丁度いいと思われる。

#### ・日臨技eラーニングについて

精度管理責任者の育成等について日臨技ではeラーニングを推している。eラーニングをアピールするビデオもあるようなので大きな研修会などのオープニングで流せばPRに繋がるとと思われる。

### 5. その他

#### ・日本臨床検査薬協2018年度プロモーション地区会(東北ブロック)派遣報告(高橋)

2月18日、仙台市で行われた2018年度プロモーション地区会に参加した。基本的内容は公正取引に関わる話であった。臨床研究には共同研究、委受託研究がある。それぞれ規定があるが共同研究と委受託研究は契約書の締結、倫理審査が必要とされていて、学会発表が可能である。一方、採用前検討(臨床試用)は臨床研究に当たらない為、倫理審査、契約書は不要であるが、得られたデータでの学会発表は出来

ない。学会発表に使用するには契約書を締結し、データは再度、測定しなくてはならない。学会等の会合の運営に関してだが、基本的には学会の運営は参加者(受益者)が負担するものであるのが前提である。寄付金募集に関しては会期の3か月前までに趣意書、収支予算書などを提出する必要がある。開催費用の過半は自己資金で賄うが、その中でも懇親会などの本人達が利益を受けるものについては開催費用の中には含めてはいけない。開催終了後、6ヶ月以内に決算報告書、事業報告書を提出。労務提供は1社1日あたり1~2名を目安とするが企業によって人員を提供できる数が異なってくるので、多く人員を出したからといって貢献度が高いと判断するとプロモーションに引っ掛かってしまう。抄録作製時に広告料をお願いしているが、抄録作製の実費に充当し学会運営費とはしない。開催は今年もう一回、仙台で行われる予定である。

- ・岩臨技精度管理調査について(千葉)

岩臨技の精度管理調査の報告書等は今までCD-Rで郵送していたが、経費削減や作業の簡素化の為、今後は郵送を減らし、日臨技ホームページからダウンロードするか又はメール添付にしたい。今年度、郵送したのは最初と最後の2回のみで請求書、参加証明書等は日臨技のシステムからダウンロードする形にした。来年以降は報告書もダウンロードする形式にしたい。

- ・日臨技精度管理調査サポート助成について(千葉)

『日臨技精度管理サポート事業(都道府県技師会開催)助成金』は日臨技の精度管理調査においてC・D評価を受けた施設を対象に結果検討会等の精度管理に関する内容の研修会実施を条件としている。参加人数によるが最大70,000円の助成金が出る。来年度から開催できるよう準備していくこととなった。

- ・平成31年度の定期総会等について(畠山裕司)

6月8日(土)に開催する。議長は三陸地区から選出する。30年度の事業報告、31年度の事業計画案を3月23日(金)までをお願いしたい。各地区の収支決算は3月22日(木)までにサイボウズに上げてほしい。領収書は原本を事務局に郵送。残金は振込手数料を差し引いた金額を岩臨技の口座に3月31日までに振り込んでほしい。監査の都合上、期限厳守をお願いしたい。次回、理事会は6月8日の午前中を予定している。研修会も今後決定しなくてはならない。研修会の後に第1回理事会を行う。新しい理事の氏名、所属、メールアドレスを5月20日頃までに報告してほしい。地区の学術部門員についても合わせてお願いする。

- ・第24回岩手県医学検査学会の開催日等について(千田)

11月頃開催し、会場を早目に押さえることとなった。

- ・日本臨床検査技師連盟の加入について

前回の理事会で理事は最低限加入することとなったが、来年度の理事にもお願いすることとなった。臨床検査の発展並びに臨床検査技師制度の向上の為にも加入して頂きたい。国会議員等に対する渉外活動は必要であり臨床検査技師の地位向上の為にも連盟に加入して頂きたい。

### III 協議事項等

- ・第3号議案 会費値上げについて(案)について

会費の値上げについて総会の議案書に載せる文章を作成した。(別紙)会費値上げの理由について、1.法人化の為の基盤強化、2.事業運営に対する課税対応、3.研修会開催数の増加に対する費用増加、4.ホームページ管理委託の為の費用、5.役員間情報ツールの為の費用とあるが、それぞれ協議する必要があると思われる。事業運営に対する課税対応は研修会などでは講師料の謝礼金は課税対象となっているので、

研修会が多くなってくると税金分が多くなってくる。運営は例年赤字会計であり、今後控えている学会の開催の準備金等が不足するのが予測されているので会費を上げざる負えない状況も謳った方がいいと思われる。学会が終わっても研修会の増加に伴う経費の増加に対応でき、また、余剰金でホームページ管理委託等の準備も進めたい。会費値上げの理由は総会などで、会員に説明することとなった。

・サイボウズの利用停止について

4月15日にサイボウズ Live が終了する。前回は協議したがサイボウズに代わる無料グループウェアにはサイボウズと同様の機能があるが、セキュリティー等に問題がある。メール機能、ファイル共有機能は必須である。サイボウズ Office を月1人500円で33名利用するとして年間198,000円経費が増加する。協議の結果、契約内容、料金等を確認し来年度はサイボウズ Office を利用することとなった。

・ホームページの作成について

ホームページを一度に作り上げるには初期経費(100万円程度)がかかるので段階的に進める。2020年岩手開催の北日本支部医学検査学会(第9回)のホームページも作成しなくてはならない。岩臨技のホームページ作成も何年後に完成させるのか、いつリニューアルするのか、予算的なことも含めて細かなことも決めなければならないので、一度、コンピューター・コンサルティング会社のぴーぷるとサイボウズの件も含めて、複数人で相談することとなった。

・各地区より本年度の活動について

〈北部地区：岡田〉今年度は3回の研修会を行ったが参加者が少なかった。11月に検査と健康展を二戸で行い100名を超える参加者があり成功裏に終わった。

〈中部地区：千田〉第3回研修会を1月26日に県立胆沢病院で行った。来年度の学会は中部地区が担当なので次期会長・役員に引き継ぎたい。研修会の案内が岩臨技と中部地区から2重で案内が来ることがあるが、無駄ではないかと話が出ている。中部地区では参加者の増加の為、地区の研修会は各施設に郵送している。研修会の案内はホームページに掲載してあるのでそちらも有効に活用してほしい。

〈南部地区：小野寺〉今年度は2回の研修会を行った。11月18日に第23回岩手県医学検査学会を開催した。

〈三陸地区：石川〉今年度は2回の研修会を行った。3月14日に次年度の三陸地区の役員体制を決める理事会を行う予定である。